

いっしょに 富山のペットたち

トキソプラズマ症とは寄生性原生生物(原虫)により引き起こされる感染症です。ネコ科動物が終宿主であり、ふん便中にトキソプラズマが排せつされ、ヒトを含む哺乳類や鳥類が中間宿主となります。ほとんどの動物は健康な状態であればトキソプラズマに感染しても症状を示さないが、軽い症状(発熱・リンパ節の腫れ)で済みます。



正寿 香國

黒部市動物病院院長
(黒部市新牧野)

流・死産の危険性

ヒトの場合多くは臨床レベルで無症状ですが、妊娠中に初めて感染すると、胎盤から胎児に移行し、先天性トキソプラズマ症になることがあります。流・死産の危険性が高まるほか、胎児に水頭症や精神・運動障害などの症状が現れる恐れがあります。妊娠前に感染していた場合、母体に抗体ができていて胎児への感染は起こりません。抗体を持っていない妊婦は注意が必要です。

ヒトへの感染は①ネコのふん便中に含まれるトキソプラズマを経口的に摂取する②トキソプラズマに感染したフタなどの食肉を加熱不十分な状態で食べる③で生じます。

①について、胎児に影響があることから、妊娠中の女性から「自分のネコは大丈夫ですか？」

トキソプラズマ症



トキソプラズマの終宿主となるネコ。妊娠中の人は野良猫に触れないように気を付けた

人獣共通感染症に注意

との相談をときどき受けます。2日かかるため、ふん便の処理を速やかに行い、処理後は手洗いをすることが大切です。ヒトネコがトキソプラズマを排せつするのは基本的に生涯に一度きりで、期間は1〜2週間です。過去に感染しても、現在健康なら感染源にはなりません(ただし、免疫不全状態のネコからは再び排せつされる可能性があります)。

また、排せつされたトキソプラズマが感染力を持つまで1〜2週間かかります。排せつされたトキソプラズマは、自然環境や薬剤に対して強い抵抗力を持ちます。野外で1年以上感染力があるため、ネコを飼っていない方も、ネコのふん便が含まれる可能性がある場所(庭・畑・公園の砂場)でうづりすくがあります。

②について、日本では戦後、食生活の洋風化が急速に進み、十分に火を通さずに肉を食べる機会が増えました。ネコと豚肉のみが感染源として注視されていますが、牛や鳥などほとんどの食肉に感染する可能性があります。日本の妊婦の抗体保有率は約10%しかありません。妊娠中はレアステーキや馬刺し、鳥除きましょう。もし妊婦が掃除する場合は、使い捨ての手袋とマスクを着用し、処理後は手洗いを十分に、ふんが口に入らないように注意しましょう。

妊婦の方は自分と飼い猫の感染歴を把握し、食生活も含めてしっかり予防対策を取りましょう。そうすることで、リスクをかなり減らすことができます。過度に心配することなく、また無警戒にもならず、飼い猫と楽しい生活を過ごしていただければと思います。

「いっしょに富山のペットたち」は、毎月第1木曜日に掲載します。

のたきなどほ控えた方がいいでしょう。

もちろん、ネコも加齢が足りない肉を食べればトキソプラズマに感染します。自由に外出できるネコの場合、鳥やネズミを捕食してうつる可能性があります。トキソプラズマを含んだ土の摂取も含めて、いっしょに感染するかわかりません。

屋外に出さない

トキソプラズマに感染したことがない妊婦にとって、全てのネコが危険というわけではありません。飼い猫を感染させないために、家の外に出さず、加熱不十分な肉を与えることはやめましょう。妊娠中は野良猫に触れたり、新しいネコを飼ったりすることも控えた方がいいでしょう。また、妊婦がネコのトイレ掃除をすることはできるだけ避けてください。妊婦以外の人が少なくても1日1回は掃